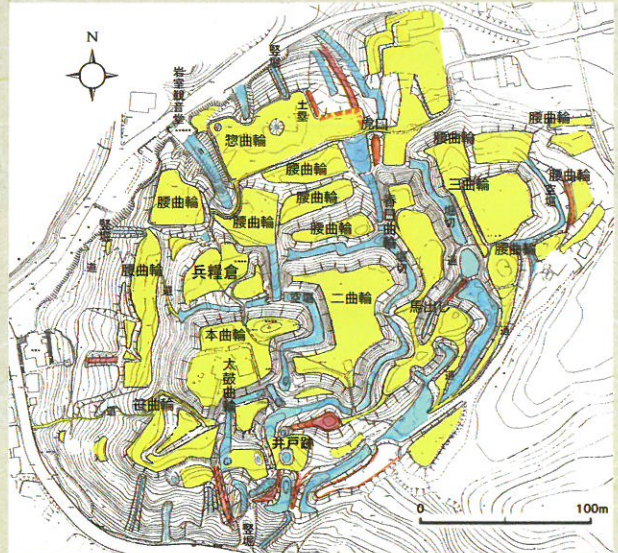


松山城跡



松山城は比企丘陵の先端に築かれた北武蔵地方屈指の平山城です。15世紀中頃から後半に、古河公方足利氏・扇谷上杉氏と山内上杉氏との軍事的緊張関係の中で築城されたと考えられています。その後、関東制覇を進める後北条氏の支配下に置かれ、永禄年間

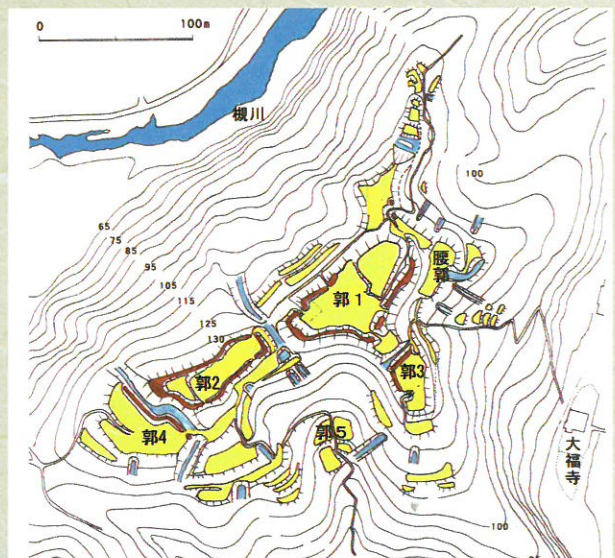
(1558～1569)以降は後北条氏・武田氏・岩槻太田氏によって城取合戦が何度も行われました。城主の上田氏は扇谷上杉氏の重臣でしたが、のちに後北条氏に臣従し、他国衆に位置づけられて所領を安堵されました。天正18年豊臣秀吉の小田原征伐によって落城しました。



小倉城跡

槻川が大きく屈曲する場所に張り出す丘陵上に築城されており、まさに天然の要害といえます。また、東秩父の大河原谷に向かう道の分岐点にあることから、交通の監視や遮断も大きな役割であった可能性があります。

この城の最大の特徴は、戦国時代の関東の



城ではまれな石垣を随所に築いていることです。また遺構の保存状態が良好です。城主は後北条氏の重臣であった遠山右衛門大夫光影とする説と松山城主上田氏とする説とがあります。